

「ブルーノ・ムナリー——役に立たない機械をつくった男」展
記念パフォーマンス

原案・構成・振付 | ルカ・ヴェジェツティ
出演 | 鈴木ユキオ、竹内英明
美術 | 吉田 萌
音楽 | ヴァロ・アラウ作曲「Nothing」

ルカ・ヴェジェツティ、吉田萌「風が吹くかぎり」展——ブルーノ・ムナリーのために「プロローグ」2018年



風が

吹くかぎり

quanto

ずっと

dura il soffio:

ブルーノ・ムナリーのために

per

Bruno Munari

ブルーノ・ムナリーが作品を通して教えてくれること、それは遊びたい気持ち、遊べる力を失わないようにすること。
そして、生きていくのに遊びは必要だし、必要とされるべきだということ。ひとりが自分自身や、
自分をとりまくこの現実をもっとよく理解するのに、遊びはとんでもなく素晴らしい手だてになるのだ。
こうした考えから出発して、ムナリー作品の置かれた美術館のなか、ダンサー、観客、そして両者のあいだで揺れる
オブジェが呼応しあう場で、何ができるだろうか。それを探るパフォーマンスになるだろう。

——ルカ・ヴェジェツティ

世田谷美術館
SETAGAYA ART MUSEUM



2018年
11月30日 | 金 |
12月1日 | 土 |

各日18:00開演(受付開始=16:00)

世田谷美術館
1階展示室
エントランス・ホール

定員 | 各日70名
料金(予約/当日) |
一般3,000円/3,500円
小・中・高・大生1,500円/2,000円

※「ブルーノ・ムナリー」展チケット付きの公演です。ぜひ開演前に展示会をお楽しみ下さい。

主催 | 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)
後援 | イタリア文化会館

「ブルーノ・ムナリー——役に立たない機械をつくった男」展

記念パフォーマンス

風が吹くかぎりずっと——ブルーノ・ムナリーのために Tanto quanto dura il soffio: per Bruno Munari

ニューヨークを拠点に国際的に活躍し、日本文化にも造詣の深い気鋭のイタリア人振付家・演出家、ルカ・ヴェジェッティ。国内では最大規模となるこのたびの「ブルーノ・ムナリー——役に立たない機械をつくった男」展を記念し、当館ではこの稀代のアーティストに捧げる新作を、ヴェジェッティに依頼しました。ムナリーのシンプルで明快な造形思考を導きの糸としつつ、彼の良き理解者だった作家ディーノ・ブツァーティのエッセイにも想を得た「風が吹くかぎりずっと」。美術家の吉田萌、ダンサーの鈴木ユキオ、竹内英明とのコラボレーションから生まれる繊細で遊び心あふれるパフォーマンスが、世田谷美術館の一隅から始まります。

日時 |
2018年11月30日 | 金 |・12月1日 | 土 |
各日18:00開演 (受付開始=16:00)

会場 |
世田谷美術館1階展示室、
エントランス・ホール

定員 | 各日70名
料金 (予約/当日) |
一般3,000円/3,500円
小・中・高・大生1,500円/2,000円

※当日精算です。
※「ブルーノ・ムナリー」展チケット付きです。ぜひ開演前に展覧会をお楽しみ下さい。当日展覧会をご覧になれない場合、チケットは公演後の会期中(2019年1月27日まで)、いつでもご使用いただけます。
※途中での移動を含む、立ち見の公演です。お体の不自由な方にはイス等をご用意しますので、お申し出下さい。
※未就学児の入場はご遠慮下さい。

予約 |
2018年10月10日(水)10:00より受付
web 世田谷美術館ホームページの申込フォームより
予約 <https://www.setagayaartmuseum.or.jp/event/>
電話 世田谷美術館
予約 03-3415-6011(10:00-18:00、月曜休)

原案・構成・振付 | ルカ・ヴェジェッティ
出演 | 鈴木ユキオ、竹内英明
美術 | 吉田 萌
音楽 | パオロ・アラッラ作曲「Nothing」

音響 | 齊藤 梅生
舞台進行 | 佐藤深雪
宣伝美術 | 加藤賢策
記録写真 | 堀 哲平
記録映像 | 杉田協士
企画制作 | 塚田美紀(世田谷美術館)

主催 | 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)
後援 | イタリア文化会館



企画展
「ブルーノ・ムナリー——役に立たない機械をつくった男」
2018年11月17日(土)～2019年1月27日(日)
ミュージアム コレクションⅢ
「アフリカ現代美術コレクションのすべて」
2018年11月3日(土・祝)～2019年4月7日(日)

世田谷美術館
SETAGAYA ART MUSEUM
〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
Tel. 03-3415-6011(代)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>



photo: Terry Lin

ルカ・ヴェジェッティ
Luca Veggetti

1963年ポーロニャ生まれ、ミラノ・スカラ座附属バレエ学校で学ぶ。1990年より振付家・演出家として活動、現代音楽に関心を寄せつつ多様な表現メディアを横断。作品はグッゲンハイム美術館パフォーマンスシリーズ「Works & Process」、メトロポリタン美術館、マーサ・グラハム・ダンスカンパニー、シテ・ドウ・ラ・ミュージックなどで制作・上演され、高い評価を得てきた。主なプロジェクトに、ヤニス・クセナキス「オレステイア」(グッゲンハイム「Works & Process」とミラー・シアターの共同制作、2008年)、カイヤ・サーリアホ「Maa」(同、2010年)、細川俊夫「班女」世界初演(サントリーホール、2009年)、同「大鳥」米国初演(第1回ニューヨークフィル・ビエンナーレ、2014年)など。近年の仕事に、原案・演出・振付を担当した「左右左」(横浜能楽堂とジャパン・ソサエティ【ニューヨーク】の共同制作、2017年)など。美術館のための作品として、「NOTATIONOTATIONS」(ドローイングセンター【ニューヨーク】、2013年)、パフォーマンスとビデオインスタレーションによる「Scenario」(トレント・ロヴェレート近現代美術館、2016年)がある。

鈴木ユキオ
Yukio Suzuki



photo: Yoshikazu Inoue

「YUKIO SUZUKI Projects」代表/振付家・ダンサー。世界40都市を超える地域で活動を展開し、しなやかで繊細に、かつ空間からはみだすような強靱な身体・ダンスは、多くの観客を魅了している。また、室伏鴻・中村恩恵の作品出演やMV出演、ミュージシャンとの共同制作やワークショップなど、活動は多岐に渡る。2008年トヨタコレオグラフィアワード「次代を担う振付家賞(グランプリ)」など受賞多数。2012年フランス・パリ市立劇場「Danse Elargie」では10組のファイナリストに選ばれた。

竹内英明
Hideaki Takeuchi



1981年高知県生まれ。京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 舞台コース卒業。以後ダンサーとして活動。これまでに山田せつ子、桑折現、きたまり、杉原邦生、白井剛、倉田翠、小野寺修二、村本すみれ、奥野美和、鈴木ユキオ他、多数の振付家、演出家の作品に出演。

吉田 萌
Moe Yoshida



photo: Stefano Croci

大阪芸術大学美術学科絵画科卒業後、1998年に渡伊、2004年ポーロニャ美術学院卒業。美術の分野で表現活動を行うとともに、舞台美術や実験的な人形劇の分野でルカ・ヴェジェッティとのコラボレーションを積極的に行っている。近年の主な個展に「Cani Correnti・犬流」(Localedue【ポーロニャ】、2014年)、「ジェルンディオ」(Gallery Taga2【東京】、2017年)、グループ展に「ニューコレクション展・未発表、再発見」(モデナ市立美術館、2015年)など。舞台美術の仕事として、細川俊夫「班女」世界初演(サントリーホール、2009年)、カイヤ・サーリアホ「Maa」(グッゲンハイム「Works & Process」とミラー・シアターの共同制作、2010年/シテ・ドウ・ラ・ミュージック【パリ】、2013年)、人形劇「ペレアスとメリザンド」(Swedish Cottage Marionette Theater【ニューヨーク】、2017年)、など。



交通案内
・東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バス④「美術館」下車徒歩3分
・小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス⑨「砧町」下車徒歩10分
・小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス⑩「美術館入口」下車徒歩5分
※お車でお越しの方は、美術館東側の「砧公園有料駐車場」をご利用ください。